

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.17
平成26年11月17日

「幸せ」の段階－ニューモラルより

幸せには、いくつかの段階があるとされています。「誰かに何かをしてもらうこと」も幸せの一つでしょう。しかし、その幸福感は一時的なものです。人から「してもらうこと」を期待するばかりでは、「してもらえなかったとき」に不満が募るなど、徐々に心が満たされなくなっていくことにもなりかねません。

「自分で何かができるようになること」も一つの幸せですが、それは、「自分一人の幸せ」にとどまることが多いものです。

より長く続く、また、より多くの人と共に分かち合うことのできる幸せ、それは、「**小さな人に優しくなれる**」という言葉に象徴されるように、「**自分が人の役に立っている**」と実感したときに味わう幸せではないでしょうか。

他人の喜びを「わが喜び」とする人は、周囲の人から好かれ、頼りにされるものです。そして、「あなたのことを頼りにしています」「あなたのおかげで助かりました」などと言われたら、誰もがうれしく、幸せな気持ちになるのではないのでしょうか。誰かの喜ぶ顔を見る幸せ、誰かに必要とされる喜びは、「**形のない収穫**」ともいうことができます。

横断歩道で優しく1年生女子の手を引いてあげた6松のT君、担任の給食のおかずが足りないと分かったとき、真っ先に自分の分を差し出して、給食室に取りに行ってくれた6竹のK君、「**人のために何かをする**」「**人の役に立とうとする**」ことによって、究極の段階とも考えられる幸せを実感している桜っ子もたくさんいます。

全校朝礼の話－11/17（月）

おおきくなるっていうことは
ようふくがちいさくなるっていうこと。
おおきくなるっていうことは
あたらしい はが はえてくるってこと。
おおきくなるっていうことは
みずに かおをながく つけられるってこと。

ったこと)も、おおきくなるっていうことです。

そのとき、とても嬉しくなり、幸せな気持ちにつながっていくことでしょう。こんな経験をみなさんはしたことがあるでしょうし、誰もが幼いころに味わったことのある気持ちではないでしょうか。

この絵本は、右のように結ばれていきます。

年を重ねるほどに増えていく、自分より年少の「小さな人」に対して「やさしくなれる」ということ。それは、「心の成長」ということができます。

一般的に、体の成長が実感できるのは、成人するころまででしょう。しかし、「心の成長」には限りがありません。

こんな自分自身の「心の成長」を「幸せ」として生涯(これから先ずっと)追求していったなら、どんなにか喜びの多い人生になるだろうと思います。

これは、ある絵本の一節です。小さな子ども達にとって、そして、君たちにとっても「**大きくなる**」ということとは、自分の体の成長(身長が大きくなったり、体重が増えたりすること)を実感することがそうです。

また、これまでできなかったことができるようになること(体育で逆上がりができるようになったことや、水泳で顔を水の中につけられるようになったことや、2.5mを泳げるようになったこと)も、おおきくなるっていうことです。

おおきくなるっていうことは
じぶんよりちいさなひとが
おおくなるっていうこと。
おおきくなるっていうことは
ちいさなひとに やさしくなれるってこと。
おおきくなるっていうことは
そういうこと。